

～みんなにやさしいまちに～
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進事業 活動報告書
〈平成29年度〉



平成30年3月
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進部会

<目 次>

I. モデル地区推進事業	1
II. 海老沼小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	12

I. モデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. これまでのモデル地区推進事業

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区 : 高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区 : 仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区 : 桜木小（平成21年度）

- 平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区推進事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応しました。

- 下落合小（平成23年度）
- 大谷場中（平成24年度）
- 岩槻中（平成25年度）
- 大宮北小（平成26年度）

- 様々な地域における小中学校の協力のもと、年1回モデル地区推進事業を実施してまいりましたが、安定した参加者数を確保できない点が課題でした。

そこで、第3期（平成27年度から平成31年度）については、地域の自治会、民生委員・児童委員、PTA、保護者、地区社会福祉協議会、NPO等に対して働きかけを強化し、よりモデル地区推進事業を拡大することで、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指します。

- 神田小（平成27年度）
- 植水小（平成28年度）

3. 活動イメージ

- 「広報・PR」、「市民参加の促進」、「施設整備の促進」をキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、当事者との交流、障害等の体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。

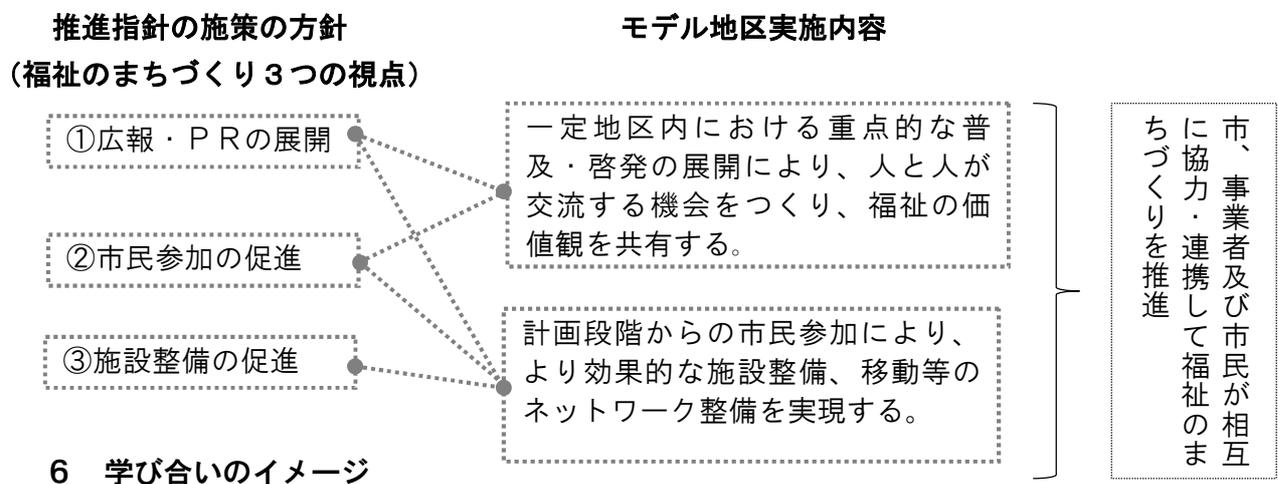
なお、小・中学校での学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

4. 組織

- 「さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、市民代表によって組織され、モデル地区推進事業を展開しています。

5 モデル地区推進事業の展開

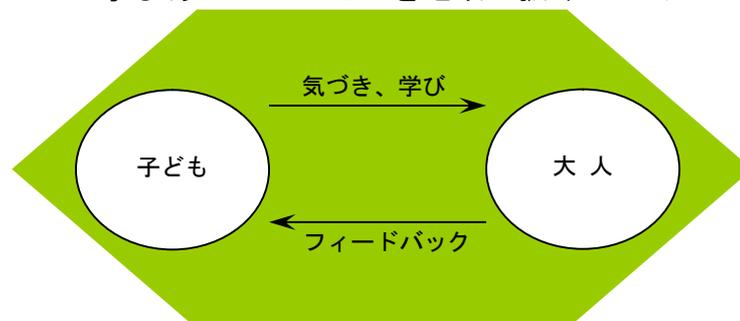
- 地区内の学校と協力した福祉教育の展開、地区の現状調査やマップづくり活動、イベントと連携した福祉のまちづくりのPR等を実施します。



6 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。

学び合いのプロセスを地域に広げていく



Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区推進事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす保護者や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や関係者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

平成29年度は、見沼区にある海老沼小学校に協力をいただいて実施しました。

海老沼小学校での取組について

海老沼小学校では、6年生（98名）を対象に実施しました。

（1）取組の概要

【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体、NPO団体、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、市社会福祉事業団などが参加しました。

【テーマ ～みんなで歩むこれからの海老沼～】

海老沼と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較するなど、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考えていきました。

【実施計画】

過程	子ども達の活動	
ふれる	<u>ふれあい学習</u>	・高齢者や障害者の方と接し、バリアフリー等についてより詳しく知る。 ⇒課題決定
つかむ	<u>まち歩き学習</u> 自分たちのまちについて考える	・どのようなところにバリアフリーがあるか。 ・バリアフリーが必要な場所はどこか。 ・自分たちにどのようなことができるか。 ・自分たちのまちに課題はないか。

深める	新都心見学	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインやバリアフリーで身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。 ・海老沼小学校周辺と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになってほしいかを考える。
	調べる 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ人の、よりよい生活の仕方を考える。 ・街中の施設や店、駅、道路にされている工夫などを調べ、自分たちのまちに生かせないか考える。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインについて考える。
まとめる	『みんなで歩むこれからの海老沼プラン』を考える 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・海老沼地区に住む全ての人々にとって、「便利・住みやすい・安心」なまちはどのようなまちか、その方法を考える。 ・これからどのように歩いていくか、自分なりに考える。 ・自分たちがすぐにでもできること、ということを考える。 ・偏見や差別をしないこと、知らない人にも教えること、正しく使うこと。
	学習発表会	学習を通じて感じたことを交流しあい、自分ができるそうなることに取り組んでいく意欲を高める。



(2) ふれあい学習

日程：平成29年9月21日

会場：海老沼小学校各教室・体育館

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリーッシュ、ボランティアグループシャンティ、片柳地区社会福祉協議会、見沼区ボランティア連絡会

内 容

【目的】

- ・当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心をもち、その特性などを理解する。

【ねらい】

- ・自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを、交流を通じて理解する。
 - ・疑似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知る。
- ⇒児童や周りの大人が、普段なかなか出会ったり関わったりしない方との交流により、当事者について考えたり、気づいたりできる「きっかけ」にする。

【活動内容】

- 当事者等が自身についての話をし、自分達の生活や想いを児童に伝えました。
 - 当事者が普段使用している道具に触れるなどの各体験等の学習を通して、それぞれの特性について理解を促す。
- ⇒児童の関心をさらに引きつけ、生活についてイメージできる「きっかけ」にする。

	学習内容	学習の様子
視覚	<ul style="list-style-type: none"> ・アイマスクと白杖を身に付けて、視覚障害の体験をするとともに、介助の仕方や声掛けの大切さを学びました。 ・外出時に注意していることや食事のとり方など、日常の生活について学びました。 	

<p>聴覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と講師が、手話によるあいさつや自己紹介により交流をしました。 ・チャイムを押すと振動で来客を知らせる器具など、日常の生活について学びました。 	
<p>知的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストボードや身近なキャラクターなどを用いて、知的障害について理解を深めました。 ・ジェスチャーでのコミュニケーションや、パニックになったときでもやさしく見守ってほしいことなどを学びました。 	
<p>車いす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害者は可哀想、大変」というイメージを、「クイズ」や「電動車いすサッカー」等を通じて、変えていきました。 ・電動車いす体験や、二人一組になっての車いす体験と介助の仕方を学びました。 	
<p>高齢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師からの話を聞き、高齢者の身体状況や認知症について学びました。 ・高齢者疑似体験グッズを身に付け高齢者の日常動作を体験し、どのように接したらよいのか学びました。 	

(3) まち歩き（小学校周辺）

日程：平成29年11月9日

会場：海老沼小学校周辺、体育館

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、ボランティアグループシャンティ、片柳地区社会福祉協議会、見沼区ボランティア連絡会

内 容

【目的】

- ・ 障害等の体験により歩きなれた道（海老沼小学校周辺）について視点を変えることでギャップを実感する。
 - ・ 当事者の方と交流しながら歩き、その方たちがどのように感じているのか知る。
- ⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけ、気づきを促す。

【ねらい】

- ・ 実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解する。
- ・ 一人ひとりの能力がハンデの原因ではなく、環境（バリア）が、ハンデを生むことに気づく。

【活動内容①】

○学校周辺のまち歩き

グループに分かれて、子ども、当事者の方などと共に歩き、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、歩き慣れた道におけるバリア等について、多くの気づきを得られました。



【活動内容②】

○グループミーティング

まちを歩いてみて感じたこと、考えたことを情報共有することで、そこから派生するさまざまな意見交換を実施しました。



(4) まち歩き（さいたま新都心駅周辺）

日程：平成30年1月25日、平成30年2月19日（学級閉鎖のクラス）

会場：さいたま新都心駅 けやき広場等

参加者：児童、障害者団体等

講師等協力団体：さいたま新都心ふれあいプラザ

内 容

【目的】

・海老沼地区とさいたま新都心駅周辺のバリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「だれもが住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考える。

⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけや気づきを促す。

【ねらい】

・ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。

・バリアフリーの整備状況が異なるまちを実際に歩くことで、バリアやバリアフリーについて理解を深める。

【活動内容】

○さいたま新都心駅周辺の点字ブロックやエレベーター、多機能トイレなど、バリアフリーの整備状況について、まち歩き体験を行いました。

○だれもが住みよいまちにするためにどのような工夫がされているか学びました。



(5) 学習発表会

日程：平成30年2月26日

会場：海老沼小学校体育館

参加者：児童、保護者、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、ボランティアグループシャンティ、片柳地区社会福祉協議会、見沼区ボランティア連絡会

内 容

【目的】

自分たちのまちを「皆が住みよいまち」にするためにはどうすればいいのか、考え、行動していく、という福祉のまちづくりを地域に広げていくきっかけとする。

【ねらい】

児童の豊かな感性から生まれるアイデアや気づき、子どもだから言える素直な意見を大人たちに伝え、海老沼地区に住む全員が考えるきっかけにする。

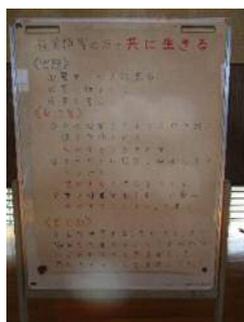
【活動内容】

- 体験等の経験をもとに、海老沼地区の課題等に対する自分の考えを発表しました。
- 大人から感想や質問によるフィードバックを受け、学び合いを行いました。

発表の様子



発表資料 児童が調べ考えた「みんなで歩むこれからの海老沼」のプラン



「視覚障害の方と
共に生きる」

視覚障害をもつ方の問題を提起し、解決方法について発表しました。



「聴覚障害者のために」

聴覚障害をもつ方にとって困難なことを絵や文字で表し、聴覚障害者のためにできることを発表しました。

(6) 今後の活動について（学びあいのプロセスを地域に拡げていくために）

【平成29年度の事業を終えて】

海老沼小学校におけるモデル地区推進事業は、さいたま新都心駅周辺でのまち歩き学習を新都心のバリアフリー推進活動を行っている「ふれあいプラザ」に依頼して実施し、発表会においては、グループでの発表や質疑・講評の時間を設けるなど、事業内容を見直し・充実を図りました。

一方、地域の方や保護者等の参加が少なかったことから、今後も地域の方等の参加をさらに促す取組が必要と考えます。

また、発表会に参加した保護者等からも継続的に事業が実施されることを望む声が多かったことから、引き続き、学校が主体となって事業を実施できるよう支援が必要と考えます。

【今後の活動について】

1. 地域の方や保護者等の参加の促し

モデル地区推進事業は、児童への福祉教育だけではなく大人も参加し、地域ぐるみで「福祉のまちづくり」について学び合う場を作ることを目指しています。

今回は、地域の方や保護者等の参加が少なかったことから、次回の事業実施にあたり、以下の点について特に留意して実施します。

(1) 学校との認識の共有

事業を連携して実施する学校に対して、本事業が地域ぐるみで「福祉のまちづくり」について学び合う場を作ることを目指していることについて理解していただくため丁寧に説明を行い認識の共有を図ります。

(2) 学校と市との役割の明確化

地域の方への事業の周知にあたり、学校と市の役割を明確化し、学校における地域の方々への周知に向けた取組状況について、市においても随時確認するとともに課題等がある場合には必要な支援を行います。

2. 学校主体による事業の継続

本事業が学校主体で継続的に実施されるために、学校に対して必要な支援を行います。

(1) 学校への支援

本事業は当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心を持ち、その特性などを理解することが重要であるため、講師を務めていただいた福祉関係団体やNPO等の協力が不可欠です。

学校から要望があった場合は、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、支援を行っていきます。

参加者の声から

ふれあい学習 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・6年生ということもあり、行動に積極性がみられた。好天に恵まれ講師や生徒共に意義ある1日でした。
- ・積極的に手を挙げて発言する子供が多かったので、日頃の先生の学習指導がすばらしいと感じた。
- ・楽しんで車いす体験をしてもらえたので良かったと思います。色々感じてもらえたと思います。
- ・子どもたちも熱心に学んでいた。

子どもたちと交流出来てよかった。

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- ・視覚、聴覚等各特性を良く理解し、自分たちとしてどう接していけば良いか考えている姿が見られた。
- ・人を気づかうことの意味について分からないまでも、取り組む姿勢がみられて嬉しく思う。
- ・車いすの仕組みの質問があり、我々も答えられない質問で、もっと勉強しなくてはと思いました。
- ・「困ったことは何ですか？」の問いに、知的障害の子どもの母親達は、真剣に自らの体験を語っていた。前回以上に工夫がされていた。

III 【問】 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・ぜひ、先生方や地域の方々にも児童の皆さんと一緒に体験してもらえればと思います。
- ・車いす体験は入口だと思っております。次回からは、その先の心のバリアフリーという点でどう伝えていくか私たちの課題だと感じました。
- ・もう少し、障害者の方の意見を取り入れてもいいと思います。
- ・運営の仕方は、今までの経験を活かし良かったと思う。講師の先生方の説明、体験学習に工夫がみられ、良かったと思います。
- ・他のクラスが学習しているときに廊下がもっと静かにできるよう編成を工夫したい。
- ・質問の時間をきちんととれるとよい。
- ・もう少し会う機会を作ったほうがよいかと思います。

まち歩き学習 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・子どもの時に経験してみるのには良いことだと思います。実際に車いすの方を見たりできるのは貴重な体験だと思います。
- ・車いすに乗って道路に出た経験は初めてだと思うので、段差や坂道などを体験できるのは良い事だと思います。みんなが生活しやすいまちづくりを考えてもらえるようになれば良いですね。
- ・近所の道の段差や坂道、バックミラーなど参加して初めて認識した。大人も子どもと普段から一緒に近所の危険なところを確認することが大変だと思う。
- ・生徒の自主性もあり、担当のコースに真剣に取り組んでいるお子さんもいる反面、周辺の道路や環境への配慮・気づきに少し課題を残したと思います。講師の皆さんは今回も熱心でした。
- ・安全上難しいところもあるかと思いますが、もう少し複雑で難しいコースで体験できればと思いました。児童の皆さんはとても一生懸命に取り組んでくれていました。
- ・児童達も素直に聞いてくれて教える側としても有意義に感じました。
- ・子ども達も熱心に行動し、好印象でした。歩道の段差が多く、障害者にとっては、良くない。

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・白内障体験ゴーグルを着用していて、気分が悪くなりそうだと言っていた。体感できていると思った。
- ・前回の話の中で誤解を招いたようで、お友達の中で障害者扱いをする様子を見かけました。私たちの話がうまく伝わらなかったようで残念です。
- ・車いすを持ち上げて階段を上がる時、全員が持ち上げる側をやりたいと言った事、車いすの人は、お風呂はどうするのか等、興味をもってくれた事が良かった。
- ・車いす体験で3人で力を合わせて高い段差を超える時、とても熱心に行っていたので感動しました。
- ・視覚障害の体験をするなかで、介助者の声かけのタイミングが遅いことが気になりました。

III 【問】 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・学校の周りの道路は比較的通行しやすいので、もう少し通りにくい場所を選択するか、あえて通行人や自転車などの役を作って通りにくい状況を演出してみても良いのかなと思いました。
- ・6年生の男子には、高齢者体験用のおもりは軽いのか、走ったり、わざと高い所に登ったりしていました。学年や装具を見直しても良いのではないかと思います。
- ・ウエイトを着けていた児童の中には、まったく負担を感じていなかった子もいたようです。高齢者が困る歩道等の問題について、ある程度、歩き始める前のレクチャーが必要と感じました。高齢の方々も参加されていましたが、とても元気な方々で問題意識がない方々がほとんどでした。
- ・知的障害というただでさえ理解しにくい事を、歩きながらというのは難しく、何か歩く前に課題をあたえ、それを見つめながら歩く行動をする方が良いかと思いました。

学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

I 本日の学習発表会は、モデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。

・体験を通しての気づきがたくさんあり、素晴らしいなと思いました。講師の感想で、改めて気づいた事があった、自分たちにできることの幅が広がったとの事。有意義な会でした。

・子ども達の発表の後の講師の方の感想がとてもためになりました。間違っている点や他の場合がある点など詳しく説明していただきわかりやすかったです。

・少人数のグループで皆さんよく調べていたと思います。中には劇をしたり、工夫した発表もあり感心しました。きっかけはどうであれ、今回調べたこと、感じたことを忘れずにこれからの生活に活かしてほしいです。

・6年生ということもあり、発表のレベルが高く驚きました。特にバリアフリーなどのハード面での理解が高かった様に感じました。差別や偏見などは伝える方も理解する方も難しいとは思いますが、今後はそういった事も伝えられればと思います。

・今迄、行動、思索してきた事を、グループで討論し、まとめ、工夫して発表してくれ、大変良き学びが出来たと思います。「バリアフリーに関心を深め、障がいの有無に関わらず誰もが快適に暮らすことが出来る地域になれば…」との言葉が印象に残りました。

・体験を通じて高齢者や福祉のまちづくりに必要なこと、自分で出来ることを考えてもらった。「声かけをする。手助けをする。家にいるおじいちゃん、おばあちゃんを助けたい」など、よい言葉を聞かせてもらった。

・体験学習で高齢者の大変さを実感できた。これから手助けしてあげたいという発表内容でした。実際に体験することは大切だと思いました。発表方法にも紙芝居など工夫されていた。

・生徒さんの発表がアイデアを持っての素晴らしい発表でした。今までにない素晴らしい発表でした。今後の生徒さんに大きな期待をしています。

聴覚障碍の発表では手話での自己紹介や無音で発表したり、体験を生かした内容や示唆が目についた。視覚では、不便な個所と対策を具体的に示したり、作図をしたりして表現をしていた。全体的にも、6年生らしく、視点と今後の取り組む方法などを各自が考え、障碍との取り組みと参加（手助け）を姿勢があらわれており、成長に期待したい。

・「障害をもっている方も普段の自分たちとかわらないんだと思った」、「やさしく声をかけていきたい」など、私たちの講演で心にとめる事が出来、よかったと思う。又、インターネットで調べたという内容が片寄った情報で、まだまだ伝える事が難しいと思った。

・聴覚障碍の発表では、「声を出さずに発表して、聴覚障碍の方の世界を聞いている他の生徒さんにも体験してもらおう」、「筆談しているところを見せる」、「まちづくりについて立体模型を作って見せる」。知的障害の発表では、「紙芝居を使う」、「知的障害の方とのコミュニケーションについて、良い例悪い例を生徒自ら演じて見せる」等、どのグループもよく考えて、工夫しての発表でとても分かりやすかったです。発表の最後は「区別、差別をせず普通に接し、助けが必要なきときは進んで声をかける」というのが印象的でした。今回学んだ、“当たり前の優しさ”をいつまでも忘れないでほしいです。

Ⅱ 本日の学習発表会及びこれまでの一連のモデル地区推進事業（体験学習やまち歩き学習）に参加され、お気づきの点や次年度への問題・課題、改善したほうがいいと思われたことがありましたら、お聞かせください。

- ・障がい者、高齢者の事を知り、悩み、比較し、考えた事は、素晴らしい事。特に自分達に何が出来るか、どういうまちが必要かを考え、行動した事は、将来大いにプラスになると思う。私自身もこの取り組みで新たな気づきを感じました。
- ・車いすの体験は楽しんでもらえるのですが、その先の理解を得るためには何をすべきなのか、私たちの課題かなと思いました。生徒さんによっては、発表が恥ずかしかったり、時間が余った時の対処が上手くいかなかったりしたので、各グループに先生がついていただけるとよかったですかなと思います。
- ・障害に関して学べるいい機会だと思う。
- ・高齢化社会、超高齢化社会に突入して、このような体験を行って理解を深めることは、とても有意義なことである。
- ・6年生の体験とあって素晴らしい発表でした。今までの講師の先生の話をお細かく聞いて、そのまとめを行っていた事が大変良かったと思います。
- ・体験学習の前に、もう少し具体的に何を視るのかをオリエンテーションをすると、もっと良く理解できたと思う。学習発表会の方法は、昨年度より、今年度の方がより分かり易かった。
- ・体育館で一カ所に集めての発表は難しい。聞き取りにくいところもある。保護者の方も参加しているので、保護者の方の感想とか発表以外の生徒さんたちも感想を伝えられたら良かったと思います。
- ・発表と感想という形式だけでなく、質疑や意見交換などもう少し近い距離感で交流がもてるとより良いなと思います。

発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961